

「2013年1月度講演会」

「私の経験した国際協力の仕事について」

講師：上下水道・総合技術監理部門技術士 小川 孝明

第一章 国際協力の仕事に関心がありますか

どんな国が国際協力をしているか、どのくらい国際協力を拠出しているか、援助を受ける国はどんな国か、日本の国際協力はどのような状況か、などについて世界銀行、国連開発計画、日本のODA予算などからのデータを駆使して国際協力の現状と協力の内容について解説が行われた。日本の国際協力のポジションについては、GNI比20位、国民一人当たりの負担比18位、純額比5位、総額比2位（以上2008年度）、などデータのまとめ方で受ける印象が異なることを認識した。援助を受ける開発途上国のデータでは、途上国の過去（20年前）と現在を比較することでその改善を確認できるが、いろいろな面での格差が大きいのが現実である。比較に使用した主なデータは、40才まで生きられない確率、1日生活費1.25\$以下で生活している人口、GNIAMPC、初等教育就学率、15才以上の文盲率、5歳以下の幼児死亡率、安全な水にアクセスできる人の人口など、データを抽出した国々は、講師が応募した途上国13カ国と比較のために中国、アメリカ、日本を表示した。

第二章 パキスタンでの経験

講師が参加したパキスタン国での下水道調査の業務について、業務の背景と任務、現地調査、報告書の作成作業などの概要を紹介。調査業務の進め方、C/Pとの協議や現地調査の仕方、パキスタン側の要求事項と要求内容の評価・優先順序の割り振り、援助後の期待される効果とその効果把握方法の検討、チーム構成員間の協力の模様や報告書の協同執筆方法、現地の組織体制予算の実態やパキスタン国およびパンジャブ州の下水マスタープラン（将来構想）実施状況と聴取、今回の援助内容の整理とその根拠・理由の確認などなどを時系列に沿って説明を行った。限られた時間内に要求された内容を盛り込むために、チームワークと時間の効率的な使用を心がけたこと、C/Pの協力は非常に重要であり齟齬が生じないように依頼内容の明確化に配慮したことや膨大な入手資料をメンバー内で手際よく分担整理し、調査目的に合った情報を取り出すことなどに苦労があったことを報告された。

第三章 国際協力の仕事を獲得するまで

JICAのHPに国際協力の仕事獲得のプロセス、条件、資格要件、手続きなどが公開されているので、だれでも条件を満たせば応募可能である。業務の内容、仕事の募集の種別、契約形態などもWEBで説明されており、自分に合った仕事を探すことができる。講師は、1年以上に渡り公示、公募に応募を繰り返したが、国際協力の経験が浅いためか、苦戦、パキスタン国の下水道調査後22件にチャレンジするも受注が困難であったことを報告された。

第四章 国際貢献を目指して

日本はかつて第二次大戦後、アメリカからガリオア・エロア資金を受け復興と経済発展に成功した。その額は約 12 兆円（その内 9.5 兆円は無償援助）にものぼり、現在日本が実施している年間 1.7 兆円規模の国際協力事業と比較すると、いかに多額の援助が日本に与えられていたかがわかる。その他、世界銀行からも借款を受け、関西電力・黒 4 ダム建設（1958）東海道新幹線建設（1961）、東名高速道路東京～静岡間建設（1966）など世界からの援助を受けて発展したことを忘れてはならないと考える。今現在、国際協力を行う多くの関係者が途上国の援助を通して世界の平和の維持と発展に貢献している。